

千八百七十八年七月三日刊行東京々々新聞抄譯

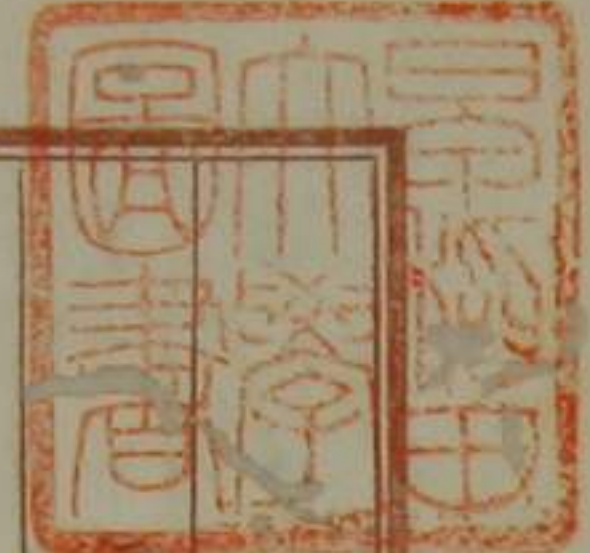
海關稅則改正考案說



3006



414
A2353



海関税則改正考案之説

堀口 昇譯

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

本月三日刊行ノ「ジャツパンガゼット」新聞ハ日本政府ノ海関税則改正ニ関ハル意見所望ノ寫ト稱スル明細書ヲ掲載セリ蓋シ是政州刊行ノ新聞紙ヨリ騰寫セルモノト思ハル

蓋シ我輩ノ同業者タル「ガゼット」新聞記者ハ其確實ニ充分ノ信用ヲ置キ以テ之ヲ掲載シタルハ令更ニ我輩ノ贅言ヲ待タサル所ナリ而シテ同記者カ此ノ如キ明細ノ報道ヲ得テ之ヲ其紙上ニ揭示スルモ公許ヲ口實トスル能ハサルハ如何ノ理由ニ根スルク実ニ我輩ノ會得スル能ハサル所ナリ

「ガゼット」新聞ニ曰ク此海関税則改正考案ハ鮫島君ヨリ日耳曼政府ニ差出シ該政府ハ又其適否如何ヲ報告セシメ命シテ「ムボルク」高法會議所ノ評議ニ下附ニタルモノナリト

大正十一年四月

然リト云々我輩ハ其挙ノ形情ヲ察スルニ足ク非常ニシテ且意
外ナレハ其他ニ確實ノ証憑ヲ得ルニ非レハ容易ク之ニ信用ヲ
置キ肯シセサルモ敢テ不可ナカラシムラ信スルナリ
抑モ敦島君ハ日耳曼政府ニ派遣セラレタルニ非ラズ且返令條
約改正ノ事項ハ日本政府ク同氏ニ委任セル職掌中ノ緊要ナル
モノタルトハ疑フヘカラスト云々同氏々欧州大陸ニ駐劄スル
日猶ホ浅シ如何シテ同氏ハ政羅巴諸國ニ日本諸大臣ノ意趣ヲ
洞徹スルコトヲ得ンヤ
加之日耳曼駐劄日本公使ハ青木君ナリ而シテ敦島君ハ佛國駐
劄公使ナルニ同氏ヨリ海關稅則改正考案ヲ日耳曼政府ニ申呈
セルモノトセハ其中呈ハ奇異ニ其本道ヲ通行セサルニ於テヲ
ヤ
若シカセツト新聞ノ說ヲ信スレハ日本公使敦島君ガ去ル三月

三十日ニ佛國へ到着スルノ後テ諸事迅速ニ陸續相奉リタリト
セサルヲ得ス請フ試ミニ之ヲ言ハン
則チ敦島君ハ佛國ヨリ右ノ稅則改正考案ヲ伯林ニ駐劄スル同
僚青木君ニ遞送シ青木君ハ之ヲ日耳曼政府ニ申呈シ該政府ハ
之ヲ「ハムボルク」商法會議所ノ評議ニ附シ其會議所ハ之ヲ刊行
シ而シテ日本ニ再ヒ遞送セラレタルナリ
總テ此等ノ事件ヲ悉了セル其時間ヲ問ヘハ僅カニ三ヶ月ニ過
キス
斯ノ如キ迅速ナル所為ノ全ク為シ難キニ非ルトハ固ヨリ論ヲ
シト云々凡ソ外交機密ノ事務ニ於テ此ノ如キ神速ナルハ吾輩
ノ疑惑ヲ喚起スルモ敢テ理ナキニ非ルナリ
吾輩々右稅則改正考案ヲ確實ノモノト信用スル能ハサル猶ホ
一層確乎トシ理由ハ其改正考案中ニ存セリ

其改正考案 條目ヲ見レニ或ハ其詞ニ重大ナル誤謬ノ存スル
ナキ乎或ハ其甚シキ騙詐ニ基キタルモノニ非スヤ等ノ疑惑ヲ
尤ト思ハレメル程ニ皆日本政府ノ当路者ノ持論トシテ世
ラレタル意見ト反對セリ
何トナレハ所謂其改正考案ノ目的タルヤ日本國民ノ甘諾スル
兵ニシテ又日本政府ヲ各國ノ同意ヲ得テ確立セシメテ冀圖ス
ル海關稅ノ確定セル割合ヲ照會スルモノナリ
然ルニ我輩カ嘗テヨリ聞知スル所ヲ過ツニ非レハ日本政府ハ
條約改正ノ機ニ乘レテ其嘗テ不幸ニ失ヒタル稅權ヲ回復セン
トニ汲々シ再々先人ノ過轍ヲ蹈ミ海關稅ノ確定シタル分限中
ニ永久羈絆サルカカ如キ條約ニ同意スルノ思想ヲ毫モ有セサ
ルハ信ナレハナリ
日本人ハ其往時ノ條約ヲ訂盟セル官吏等ノ無識ト經驗ナキト

ノ不幸ナル結果タル此貿易上ノ束縛ニ數年間苦ミタルニ非ス
ヤ
而シテ又千八百五十八年(安政五年)及千八百六十六年(慶應二
年)ノ回轍ヲ再々今日ニ演セハ日本政府ハ大眼ヲ開キ其兩手ヲ
捧ケ自ラ好シテ外國ノ桎梏ニ束縛セラレン為メニ突進スルモ
ノト何ソ異ナランヤ
果シテ然ラハ日本政府ハ自ラ時限ナク其獨立權ヲ放棄スルナ
ク而シテ今日ノ日本狀態ヲ顧ミレハ豈唯時限ナキノミナラン
ヤ永世之ヲ放擲スルナリ
我輩ハ日本政府ノ当路者々皆突然狂気ニ襲ハレタリ、見政ス
ニ非ルヨリハ如何シ日本政府カ此ノ如キ卑屈鄙陋ノ方
取リタルヤヲ辨解スヘキ他ニ途アルヲ知ラサルナリ
日本政府ハ日耳曼政府ハ照會セル稅則改正考案ナリト称ス

ルモノハ之ヲ実行スルモ日本國ニ利益ヲ与フヘキモノ
ニ非ルヲ辨論スルハ我輩ノ立論ノ趣意ニ非スト虽モ自然之
ヲ茲ニ明示セサルヲ得ス
勿論此事タル我輩ノ喋々スルニ足ラサル問題ナリ何
仮令各輸入品ニ賦課スル海關稅ク其價額ノ一倍或ハ五倍ト取
極メラルハト云モ猶ホ其稅則カ外人ノ干涉ヲ蒙ムルノ間ハ其
權理工ニ於テ吾輩ハ之ヲ非難セルヲ得サレハナリ
然レモ吾輩ハ爰ニ一言ヲ贅スルモ敢テ無益トセサルナリ
今其稅目ヲ見ルニ竅高ノ輸入稅額ト雖モ千八百五十八年(安政
五年)日本政府カ「タウシヤント」ハ「アールリス」氏ト仮定約ニ因テ確
定シ他邦ト締結セル元來ノ條約局面ニ記載セル輸入稅額ヨリ
大ニ低シ
從量從價ノ兩稅法ヲ條理ニ違フテ混淆セリ

内國物産保護ノ趣旨ニ付テ之ヲ論スルモ亦タ其賦稅ノ方法ハ
全ク日本國ニ於テ無益ナルモノナリ
何トナレハ日本人ク勉メテ自國ニ於テ製造セシムル欲スル物
品ハ大凡平均一割ノ課稅ナリ
茶(讀者ヨ汝ノ面相ヲ變スルヲ勿レ)ハ二割ノ賦稅ナリ
然ルニ石炭ハ無稅ナリ
若シ其改正考案ヲシテ實ニ欺詐ノ為メニ構造セルモノナラシ
メハ必スヤ歐羅巴ニ於テ構造セルモノナリ
何トナレハ歐羅巴及ヒ歐羅巴移民地ノ產物ハ槩シテ通常低價
ナル稅目中ニ掲ケ支那ノ砂糖及ヒ亞米利加ノ柱時計及ヒ油ノ
如キ他國ノ產物ハ寧ロ高等ノ稅目中ニ置キタレハナリ
然レモ我輩ハ今論旨ノ此点ヲ分析スルヲ主トセサルナリ
我輩ノ專ニ係スル所ハ日本政府ヲ將來充分ノ自由稅權ヲ約

セスレテ其改正ニ一致スヘシトノ思想ヲ辨破スルニアルナ
リ
将来日本政府ニ充分ナル収税権ヲ与フルノ條約ニ非ンハ本
人タルモノハ之ヲ嫌惡セスンハアルベカラズ
故ニ我輩ハ前ニ述ヘタル如ク仮令此改正考案ハ尽ク說者ノ創
作物ニ非ルモノ、如ク思ハルハト望ム之ヲ確實ノモノト承認
スヘキ余義ナキ場合ニ迫ルニ非レハ日本政府ノ意見ノ代理者
トシテ我輩ハ之ヲ信用セサルナリ
若シ我輩カ其改正考案ヲ確實的ト認メサルヲ得サル場合ニ値
遇スル時ハ凡テ日本國ノ利益ヲ詢ル信友輩ハ我輩ト俱ニ皆ナ
異口同音ニ言ハントス其後ヨリ大洪水ト

